

会報 獅子の如く

2025年4月25日
第39号 地域版
発行
獅子の如く編集部



発行責任者 木村 信彦
編集 清水 美穂
西片 里紗
監修 京都文化研究会
協 吉 祥 院 六 斎 保 存 会

「こども六斎教室」 成果発表会のあゆみ



二〇〇四（平成十六）年三月十四日（日）、大谷婦人会館大谷ホールにおいて、第一回「こども六斎教室成果発表会」が開催された。六斎念仏の後継者不足を解消するため、市内各地域における伝統的な文化を子どもたちに体験、習得させようと文化庁が「伝統文化こども教室事業」の一環として始まる。

慢性的に後継者不足に悩む各六斎保存団体も賛同した事業であり、当初、市内八力所の小学校で六斎教室が誕生した。各六斎教室に講師を派遣し、京都六斎念仏保存団体連合会を通じて、傘下の各保存会の協力を得て、後継者育成に取り組まれた。

第一回六斎成果発表会では、第一部の「四つ太鼓」に八団体（小山郷六斎こども教室・京教大付属桃山小六斎クラブ・高倉小六斎クラブ・西院こども六斎会・

吉祥院子ども六斎会・朱雀第三小六斎キッズ・光徳小六斎クラブ・久世六斎クラブ）の六斎教室の子どもたちが四つ太鼓を披露した。

吉祥院子ども六斎会からは、小学一年生から中学三年生までの十七名の子どもたちが参加し、四つ太鼓を演奏した。



吉祥院天満宮で「四つ太鼓」を奉納する子どもたち

京都こども六斎教室は、「子どもたちに伝統文化を体験、習得させ、京都の六斎保存会の後継者を育成する」ことを目的に、京都六斎念仏保存団体連合会が指導講師を派遣することで、民俗芸能として正しく教えるという形が生れた。

この取り組みは、当時の京都六斎念仏保存団体連合会会長であった橋本治夫氏のご尽力や、折しも文化庁の「伝統文化こども教室事業」が始まったということにも起因する。それまで西洋音楽



吉祥院子ども六斎会(成果発)

して伝承されている六斎念仏を教材にする教育が始められた。教育が変わると、子どもたちを通して社会通念も変わっていく、これまでは、六斎をするのは男子だけと決められていたが、六斎に女子も参加することが普通のこととなった。

小学生では、覚えの早い子が、口伝えでの練習に大いに力を発揮したり、中学生になると、横笛を練習するなど、子ども六斎の練習会は、女子の参加で、若い世代の人たちにとって、続けて行っていたただ励みになるのではないかと、重要無形民俗文化財の登録によって、京都の六斎念仏が何かわるというところはありますが、そういった意味で本当にありがたいことだと感謝しております。」と述べられた。



吉祥院六斎念仏



京都の六斎念仏

京都の六斎念仏は、『吉祥院六斎保存会・梅津六斎保存会・久世六斎保存会・小山郷六斎保存会・西院六斎念仏保存会・西方寺六斎念仏保存会・嵯峨野六斎念仏保存会・千本六斎会・中堂寺六斎会・壬生六斎念仏講中・上鳥羽橋上鉦講中・六波羅

蜜寺空也踊躍念仏保存会・円覚寺六斎念仏講・桂六斎念仏保存会』により、京都六斎念仏保存団体連合会が組織され、昭和五十八年（一九八三）に重要無形民俗文化財に指定を受けた。当時、もう一団（空也念仏郡保存会）あったが、現在

は十五団体が活動する。京都六斎念仏保存団体連合会初代会長に就任した元吉祥院六斎保存会会長山中弥一郎氏は『私たちの世代にとってずっと携わってきた民俗芸能が、このたび一定の評価をいただけて大変光栄なことと思います。しかし、それ以上に思うこと

は、若い世代の人たちにとって、続けて行っていたただ励みになるのではないかと、重要無形民俗文化財の登録によって、京都の六斎念仏が何かわるというところはありますが、そういった意味で本当にありがたいことだと感謝しております。」と述べられた。

吉祥院小学校では、3年生が総合的な学習の時間に「つなげよう 吉祥院六斎」という単元で、吉祥院六斎について学習をします。

子どもたちが毎年楽しみにしている吉祥院天満宮のお祭りの中で、「吉祥院六斎念仏」が奉納されます。軽やかな太鼓のリズムと音色、獅子のアクロバティックな動き、そして土

つなげよう

吉祥院六斎

きつしよういんろくさい

蜘蛛の放つ蜘蛛の糸。見ている人が心躍らされるこの「吉祥院六斎念仏」が、吉祥院の町で大切に守り受け継がれてきていることを子どもたちはよく知りません。

吉祥院六斎を学ぶことで、そこに込められている人々の思いや努力に触れ、自分たちも吉祥院六斎を守り受け継ぎ、これからの大切にしていくという思いを

育てたいと考えています。

3年生の子どもたちは学習の中で、吉祥院いきいき市民活動センターの吉祥院六斎歴史資料展示室を見学したり、太鼓を叩く体験をしたり、実際に活動してお



まつりの思い出

京都市立吉祥院小学校

森 美知子 校長

〒601-8330 京都市南区吉祥院船戸町34



京都市立吉祥院小学校



れる方のお話を聞いたたりして学習を深めていきます。

六斎念仏が平安時代から続いていること、太鼓や獅子の動きなどは人から人へと教え受け継がれていることなどを知り、子どもたちは驚き、そしてこれまで受け継がれてきていることの大切さや人々の苦労や努力を感じるのでした。

子どもたちの中には、この学習をきっかけに吉祥院六斎に興味を持ち、こども六斎会に参加



2022年吉祥院小学校創立150周年を迎え、式典では、吉祥院六斎保存会による六斎念仏が披露されました。

吉祥院小学校は、明治5年上鳥羽小学校分校として開校。昭和6年吉祥院村の京都市下京区への編入に伴い、吉祥院尋常高等小学校と改称。昭和16年吉祥院国民学校と改称。昭和22年吉祥院小学校と改称されました。

吉祥院学区では、吉祥院ふれあいジャンボリーや、人権教育、安全教育等に取り組む学区であり、また、国の『重要無形民俗文化財』に指定を受けている六斎念仏が伝承されており、六斎念仏の体験授業



加して太鼓などの練習を始める子どもいます。

このようにこの学習が、実際に吉祥院六斎を守り受け継ぐ子どもたちを育てることにつながっていること

を私たちはとてもうれしく思っています。

今年も吉祥院天満宮のお祭り、吉祥院六斎奉納の舞台に立つ子どもたちがいると思います。子どもたちのがんばる姿を見ることが、私たちの学習がいかん重要であるかを実感します。

「京都の六斎念仏」は、国の重要無形民俗文化財やユネスコの無形文化遺産に登録されている



など、多彩な文化に触れる特色のある教育実践が行なわれています。



ます。その一つである「吉祥院六斎」を大切に守り受け継ぐ子どもたちを育てるために、今後も吉祥院小学校でこの学習を続けていきたいと思っています。